

平成30年度 京都府立綾部高等学校（本校全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と希望進路の実現 ・基本的な生活習慣の確立 ・基本的な人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進 	<p>【本校】</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆進路指導面においては、府実力テストや模擬試験のデータを分析し、学年会議や教科会議等で活用してもらえることができたので、より一層学校全体で学力向上に取り組める機運を高めるきっかけづくりができた。さらに、国語、数学、英語の三教科で添削指導等を取り入れたことにより、これまで以上に丁寧な指導ができるようになり、大学受験を希望する生徒の学習意欲を向上させることができた。 ◆京都フロンティア校地域創生推進校として「綾部学」の取組と高校生伝統文化事業の文化歴史推進校での取組を並行して実施することにより、地域の歴史と伝統への理解を深めるとともに地域に貢献できる生徒の育成を図ることができた。 ◆部活動においては、運動部では、硬式野球部が春季京都府高校野球大会で63年ぶりに決勝戦まで進出し、さらに第99回全国高校野球選手権京都大会でも42年ぶりにベスト4入りを果たすことができた。また、カヌー部は世界大会をはじめ全国高校総体と国民体育大会にも出場し、男子ソフトボール部も本年3月に高知県で開催予定の全国選抜大会に出場することができた。文化部においても、書道部が全国高校文化祭に出場し、放送部も本年8月に長野県で開催予定の全国高校文化祭に出場することになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も教育活動アンケートで学力向上に向けた取組が不十分な点について指摘いただいているので、その点については、最重要課題として改善できるよう学校全体で組織的に取り組む必要がある。 ◆2学期に学校行事が集中し、落ち着いた授業に臨むことができない環境となったことから、来年度は学校行事の精選とともに、落ち着いた授業に臨むことができる環境づくりとともに授業数確保に努めていく必要がある。 ◆インフルエンザによる欠席者が例年より多く、2クラス学級閉鎖をすることになったので、生徒自身の健康管理能力の向上とともに学校としての感染拡大防止に努め、来年度から実施される学校欠席者情報収集システム導入に向けての準備も進めていく必要がある。 ◆自転車乗車時のマナー向上と交通事故防止に向け、PTA等と連携した継続的な取組が必要であり、生徒の規範意識の向上や通学時の列車乗車マナー向上等、更なるシティズンシップ教育の継続的な取組も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と探究活動を取り入れた授業の展開 ・ICTを利用した授業を推進 ・系統的・組織的な進路指導体制の確立 ・4S(整理・整頓・清潔・習慣)運動を推進 ・部活動の活性化 ・地元小中学校及び大学との連携事業を推進

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
1 組織・運営	教職員の連携を強化し、組織的な学校運営をする。	教職員がチームとして各自の役割や責任を自覚し、選択と集中を明確にして業務に当たる。	C	◆教育活動アンケートについては、学年によって差があったが、学力向上の課題については、引き続き、日頃の授業改善を第一として各教科・分掌でも課題意識を持って取り組んでいかなければならない。
		教育活動アンケートの「学力が向上していると思う」割合を生徒・保護者ともに20%以上とする。	C	
2 総務企画部	広報活動の充実	学びの詳細を伝える情報発信と、受験生の興味喚起の機能を高めるwebサイトを構築する(週2回以上更新)。	A	◆webサイトと綾高だよりを、見やすくかつ興味を引くデザインに一新し、イメージアップを図ることができた。 ◆説明会では、在校生の活躍の場を増やすこと、中学校の行事を避ける日程にすることが課題である。
		「綾高だより」で在校生の生活を視覚的に伝え、高校の特色についての認知度を高める(年8回発行)。	A	
3 教務部	基礎学力の定着	生徒の基礎学力の定着に向けて、教科担当者会議等で日々課題・週末課題を課すように徹底する。	B	◆各教科で小テストを行うことで、日々課題として家庭学習に取り組めた。週末課題については、コースにより差ができた。ICT推進メンバーを中心にICTを取り入れた公開授業が増えた。
		各教科ICT・探究活動を取り入れた授業を2回以上公開するように、働きかける。	B	
4 生徒指導部	基本的な生活習慣を確立する	挨拶や入室マナー、正しい言葉遣いを身に付けるように指導する。	B	◆友人間やクラブ内での過ぎたからかいや、いじりなどの事案が数件起きた。早急に対応して事なきを得たが、いじめにつながる事象であることを集会等で訴えた。また、相変わらず携帯電話の不正使用が後を絶たない。学校での使用制限や、新たな規制を設ける等の対策が必要である。
		遅刻をなくすため、スタンプラリーと入室許可証のシステムを実施し、学校(担任)と家庭が連携して指導する。(遅刻5回以上学期3名以内)	C	
5 進路指導部	希望進路の実現に向けた確かな学力の育成	基礎学力の定着とそれを応用できる学力の育成に向け、土曜講座や長期休業中に実施する特別進学講座の有効な活用を図る。	B	◆模擬試験の分析が十分にできなかったため、次年度に向けた課題として残った。 ◆土曜講座については、出席率が低い状況もあり、担当者の計画どおり実施できないときもあった。
		模試データの分析とその活用を充実し、個々の生徒の学習課題の解決を図る。	C	
6 保健部	たくましく健やかな体をはぐむ。	保健だよりを年間10回以上発行し、生徒の健康への意識の向上を図る。	A	◆保健だよりを14回発行し、生徒の健康面等の意識を啓発しその向上を図ることができた。 ◆昨年度に比べ、インフルエンザ等の感染生徒は激減し、学級閉鎖を0とすることができた。
		サーベイランス等を活用して感染症の予防を徹底し、学級閉鎖を0とする。	A	
7 第1学年部	基本的な生活習慣の確立と規範意識を高める。	家庭と連携し、無断遅刻、欠席をゼロにする。	B	◆年度当初は欠席・遅刻ともほとんど無く欠席連絡もあったが、2学期に入ってから一部の生徒を中心に無断欠席遅刻が目につくようになった。 ◆掃除も大半の生徒は真面目に取り組んでいるが、自ら教室を清潔にするところまでは至らなかった。
		掃除当番に頼らず、気がついた者が教室を清潔にし、学習環境を整える。	B	

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
8 第2学年部	基本的な生活習慣を確立させる。	携帯電話等の違反利用者の根絶を目指し、「授業」を大切にす姿勢の徹底を図る。	B	◆1年次に比して、学校生活にも慣れて、比較的落ち着いて過ごすことができた。また、携帯電話等の違反者についても、やや減少させることができた。
		4S(整理・整頓・清潔・習慣)の視点に立ち、教室美化を含め、学びに向かう「学習環境」をつくる。	B	
9 第3学年部	希望進路の実現	二者面談や三者面談を密に行い、生徒自らが希望進路を探索し、センター試験受験者50名以上、国公立大学受験者20名以上を目標に、第一希望を諦めさせない指導を行う。	B	◆二者・三者面談を密に行い、生徒の希望を最優先させながら、第1希望を諦めさせない指導をし、最後まで頑張る生徒を育てることができた。 ◆担任間で日常的に連携し、生徒の進路選択、学力向上、教員の連携の在り方について考えることができた。
		各模擬試験のデータ分析を行い、教科担当会議や進路検討会議などを活用して教科担当や進路指導部と密な連携を図って情報を共有し、生徒一人ひとりが最善の進路選択をし、希望進路を実現させる。	B	
10 事務部	適正な事務処理の遂行と教育の諸条件整備	短期経営目標に基づいた予算の計画的・効率的な執行を行う。	A	◆限られた予算の中で、短期経営目標が達成できるよう工夫し計画的な予算執行に努めた。 ◆学校施設維持修繕についても計画的に進めていくとともに、突発的な修繕等にも本庁担当課と調整しながら迅速に対応した。
		各分掌部長や教科主任と連携し、ICT・探究活動を取り入れた教育活動を推進する。	B	
11 国語科	学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	計画的継続的な小テストや課題への取組を通じて、家庭学習に主体的に取り組めるよう指導する。	B	◆授業はもとより小テスト等においても、担当学年ごとに連携し、計画的継続的な取組を行うことができた。漢字検定の合格率については、回を追うごとに上昇している。目標が達成できるよう、より有効な支援を考えていきたい。
		基本的な語彙力の向上を目指し、日本漢字能力検定の受験を推奨し、準2級合格率50%となるよう支援する。	C	
12 地歴公民科	基礎学力の定着をはかり、希望進路の実現に努める。	定期的小テストを実施し課題を与えて、家庭学習の定着化を図る。	B	◆定期的に課題を与えて定着を図り、講座の実態に即して定期審査期間外に適宜、小テストなどを実施した。 ◆地理Aや日本史など複数講座展開する小科目の担当者相互で教材、授業プリントなどを交流し、内容について検討をすることができた。
		時事問題や地元の身近な題材を常時取り上げ、生徒が興味関心を示す授業となるように努める。	A	
13 数学科	基礎学力定着のための家庭学習習慣の確立	各コースの特性に合わせて小テストや週末課題等を行い、日々の学力の定着を図る。	A	◆週末課題や小テストを行うことで家庭学習の定着が図れた。 ◆模擬試験に向け、過去問等を利用して学力伸長を図った。 ◆タブレットを利用し、視覚的な授業を行った。
		授業規律を確保する。	B	
14 理科	コースに応じた指導の工夫	模試の結果分析を行い、各クラス、一人一人の希望進路実現に向けた効果的な学習指導を行う。	B	◆身近な科学的事象を紹介し、生徒の興味・関心を引き出し、結果として学力の向上につながった。 ◆それぞれの小教科で模試の分析を行ったが十分でなかった。来年度は個々の生徒に応じた指導ができるよう、さらに深い分析・実践を行いたい。
		各学年団・担任との連携を密にし、各々のクラス・生徒の学習状況に応じた授業を展開する。	B	
15 保健体育科	授業規律を確立する。	安全面に留意し、挨拶、集団行動等、きびきびとしたけじめのある授業を行う。	B	◆授業遅刻がのべ年間10人までの講座がほとんどであった。 ◆講座によってレベルの差はあるが、概ね授業規律は確立できた。 ◆運動量の確保ができた。 ◆準備、後片付けも含め、積極的に授業をする生徒が多かった。
		時間を大切にす意識を持たせ、授業遅刻を年間でのべ10人までにす。	A	
16 英語科	4技能を統合した授業展開の工夫と研究	大学入学共通テストに向けて、国の動向を把握するとともに、4技能を総合的に伸長するための指導方法を研究する。	B	◆計画的に小テストを実施したことで、学習習慣の確立や語彙力・文法力の基礎固めを図ることができた。 ◆綾部高校独自のCAN-DOリストを作成することができた。今後はその活用方法を教科内で検討、共有することが必要である。
		綾部高校独自のCAN-DOリストを作成・共有し、その活用方法や基準の妥当性について研究や実践を行う。	B	
17 芸術科	基礎技術を充実させ自ら学ぶ意欲を育てる。	授業時間を有効に活用し、授業規律を大切にす。	B	◆アンケートを実施して、8割以上の生徒が「この1年間で技量を伸ばし、心に残る作品(表現)ができた。」と答えた。 ◆授業展開を工夫し、2時間の授業時間を有効に活用した。(音) ◆生徒の個々の能力を把握しながら表現の幅を広げる指導ができた。(美・書)
		年度末に授業アンケートを行い、「この1年間で技量を伸ばし、心に残る作品(表現)ができた。」という生徒を8割以上にす。	A	
18 家庭科	家庭生活の改善・充実・向上を目指す。	家庭生活の中から課題を見つけ出し、学んだことを実生活で生かせる授業を展開する。	A	◆できるだけ時事的な内容を取り入れ、そのときの学習内容に生かすことがある程度はできた。衣食住の分野では、すぐに生活で生かせる内容を取り入れ、実生活と結び付けながら学習を進めることができた。また、提出物の点検には時間をかけ、スタンプやシールなども活用し、意欲や達成感を引き出す工夫をした。
		基礎的な知識や技能の定着を図る。	B	
19 情報科	情報モラル意識の育成	個人情報の使われ方を通して、自己の個人情報について学ぶ。	B	◆スマートフォンではフリック入力で、あまりキーボードで入力する機会のない生徒が多くなってきたので行っているが、まずまずの結果が出たと考える。
		知的財産権(著作権・特許権など)の歴史を通して、その重要性を理解させる。	A	

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ホームページも見やすくなり、より一層改善された。 ◆教員の一方的な講義型授業ではなく、学習した内容が生かせる場面や生徒同士がお互いに解答をチェックする場面があるなど工夫されていた。 ◆社会では5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)とも言われているが、4S(整理、整頓、清潔、習慣)の取組は良い。スポーツでも強いチームは履き物をきちんと揃えている。これができるか、できないかが、実社会では問われる。 ◆新聞社と連携した文章の書く力について授業をされていたが、きちんと文章がかける国語力が重要である。 ◆文章を要約する力(文章を読み解く力)も重要で新聞記事を要約させることも良いので、継続して取り組まれると学力も必ず向上すると思う。 ◆親子間でも会話が単語だけで済ませることはしないように家庭でのしつけも重要である。 ◆教育活動アンケートについては、質問内容を精選し、どこに焦点を当てるかを明確にする必要がある。 ◆他校の生徒からも「綾部高校は楽しそうである」と評価されており、学校が楽しいというのは大切なことである。楽しい中で部活動を活発にし、学力を向上させることができれば、綾部高校の更なるレベルがアップが図れる。 ◆高校3年間を通し、仲間や教職員との出会いで生徒の意識が変化し、成長したように思う。生徒の様々な部分に磨きをかけてもらえる環境をつくるのが学校である。 ◆社会に出て行くためにはコミュニケーション能力が重要であるので、進学実績も重要であるが、高校生の時にその能力が向上できるような取組に期待したい。 ◆民間企業では部下が上司を選ぶ時代になっている。学校とは官と民で違うが、生徒が教員を選ぶことはできないが、教員も生徒のアンケート等を踏まえ、常に改善を図る必要がある。 ◆学校経営計画の短期目標も民間企業の戦略経営での集中深化(Focus and Deep)のようにもう少し焦点を絞り、どこを目指しているのかを明確にさせる必要がある。 ◆探究コースの生徒には進学情報等があまり届かないという意見もあったので、今後は特進コースと同様に進学情報等も届くように改善して欲しい。 ◆四尾山キャンパスのコース(特進・探究)の選びについては、十分時間をかけて説明してから選択させる方が良いのではないかと。 ◆中学校へ配付している学校通信等が教室に掲示してもらえないという課題については、綾部高校をイメージできる写真等を掲載したポスターに学校のホームページにリンクしたQRコード等をつけたものにし、さらに、できるだけ文字を少なくすれば、中学生から見てもらえるようになるのではないかと。
------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆京都府教育委員会から指定を受けた、3つの事業【①京都フロンティア校地域創生推進校、②高校生伝統文化事業(文化歴史推進校)、③学びに向かう研究指定事業】を活かして、学校の特色化を一層推進することができた。 ◆ICTを活用した授業については、各教科のプロジェクトメンバーが積極的に取り組むことで、授業改善に繋がる良い刺激を他の教員に与えることができた。 ◆探究活動については、1年特進コースで「フロンティア学」として試行錯誤しながら取り組んだ結果、一定の成果があり、来年度以降の探究活動に活かせる良い取組となった。 ◆地元小中学校との連携については、中学校への学習ボランティア、小学校への出前授業、小学校行事への参加など多くの事業で連携をすることができた。 ◆進路指導においては、4年制国公立大学合格者が前期入試の終了時点で10名を超え、就職希望者も内定100%を達成することができた。 ◆部活動においては、運動部では、男子ソフトボール部とカヌー一部が全国高校総体に出場し、カヌー一部は国民体育大会にも出場した。文化部においては、放送部が全国高校文化祭に出場し、書道部は本年8月に佐賀県で開催予定の全国高校文化祭に出場することになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も教育活動アンケートにおいて、学力向上について課題があったので、次年度はアンケート項目の見直しを含め、改善できるよう日頃の授業改善を第一として、学校全体で組織的に取り組む必要がある。 ◆働き方改革についての教職員アンケートの結果を受け、学校行事や業務について見直すことができたが、業務のスマート化に向けて、他校の事例等も参考にしながら、より一層実効性のある取組をしていかなければならない。 ◆4S運動の取組については、各分掌内で現状と今後の取組について協議し、部長会議で情報共有したが、机上整理や執務室内の整理が不十分などところもあるので、より一層進めていく必要がある。 ◆携帯電話の不正使用が多かったため、家庭と連携した粘り強い指導を継続して取り組む必要がある。 ◆自転車乗車時のマナー向上と交通事故防止に向けては、PTA等と連携した継続的な取組が必要であり、生徒の規範意識の向上等、更なるシティズンシップ教育の継続的な取組が必要である。
----------------------	---